

平成 26 年度経費予算

平成 26 年度（第 130 回事業年度）経費予算¹は、日本銀行が中央銀行としての役割を果たしていくために必要な経費予算を確保しつつ、経費支出全般にわたって縮減余地を十分に見極めた結果、以下の通りにすることとした。

（単位：千円、％）

| 科 目 | | 当年度予算額 | 前年度 当初予算比 増減率 |
|------------------------|------------------------|-------------|---------------------|
| 銀行券製造費 | 銀行券製造費 | 51,483,139 | 6.9 |
| 国庫国債事務費 | 国庫国債事務費 | 18,263,871 | 1.0 |
| 給 与 等 | 役 員 給 与 | 420,556 | 22.5 |
| | 職 員 給 与 | 41,265,270 | 8.5 |
| | 退 職 手 当 | 9,781,852 | 0.2 |
| | 小 計 | 51,467,678 | 7.0 |
| 交 通 通 信 費 | 旅 費 交 通 費 | 1,973,712 | ▲0.2 |
| | 通 信 費 | 2,863,394 | ▲2.1 |
| | 小 計 | 4,837,106 | ▲1.3 |
| 修 繕 費 | 修 繕 費 | 2,049,069 | 2.6 |
| 一 般 事 務 費 | 消 耗 品 費 | 1,296,014 | 1.2 |
| | 光 熱 水 道 費 | 2,508,272 | 16.0 |
| | 建 物 機 械 等 賃 借 料 | 10,276,524 | 4.5 |
| | 建 物 機 械 等 保 守 料 | 11,728,094 | 6.2 |
| | 事 務 費 | 30,052,444 | ▲3.4 |
| | 小 計 | 55,861,348 | 0.8 |
| 合 計（除く固定資産取得費、予備費） | | 183,962,211 | 4.1 |
| 固 定 資 産 取 得 費 | 固 定 資 産 取 得 費 | 11,148,620 | ▲5.4 |
| | うち認可対象分 ^{（注）} | 3,198,934 | ▲9.2 |
| 予 備 費 | 予 備 費 | 1,000,000 | 0.0 |
| 合 計 | | 196,110,831 | 3.5 |
| うち認可対象分 ^{（注）} | | 188,161,145 | 3.8 |

（注）認可対象分とは、業務の用に供する不動産にかかる固定資産取得費を除いたもの。

¹ 日本銀行は、毎事業年度、経費予算を作成しているが、そのうち業務の用に供する不動産にかかる固定資産取得費を除く経費予算については、当該事業年度開始前に、財務大臣の認可を受けることとされている（日本銀行法第 51 条第 1 項等）。平成 26 年度については、3 月 18 日に認可を申請しており、認可取得を経て執行を開始する。なお、文中及び表上の計数は単位未満四捨五入。

—— 上記経費予算では、システム化関係費用 34,211,601 千円（前年度比 ▲2.4%）を、通信費、建物機械等賃借料・同保守料、事務費の中に計上している。

なお、システム化関係費用を見積もる際に予定した外部委託分の開発規模は 10,105 人月程度、これに日本銀行職員による作業を加えた総開発規模は、13,105 人月程度となっている。

具体的には、銀行券関係機器の更新・修理費用が減少すること等から固定資産取得費（前年度比 ▲5.4%）が減少したほか、交通通信費（同 ▲1.3%）が減少した。一方、東日本大震災からの復興に協力する趣旨から臨時特例措置として実施していた役職員の給与減額支給措置が平成 25 年度末で終了すること等に伴い給与等（同 +7.0%）が増加したほか、消費税率引き上げの影響等から、銀行券製造費（同 +6.9%）、国庫国債事務費（同 +1.0%）、修繕費（同 +2.6%）、一般事務費（同 +0.8%）が増加し、全体では前年度を上回る予算となっている（同 +3.5%、うち認可対象分 +3.8%）。